

小選挙区注目の候補者選挙結果

小選挙区	1位	得票数	2位	得票数
神奈川15区	河野太郎 自民	210,515	佐々木克己 社民	46,312
神奈川11区	小泉進次郎 自民	147,634	林伸明 共産	38,843
鳥取1区	石破茂 自民	105,441	岡田正和 共産	19,985
広島1区	岸田文雄 自民	133,704	有田優子 社民	15,904
神奈川2区	菅義偉 自民	146,166	岡本英子 立民	92,880
山口4区	安倍晋三 自民	80,448	竹村克司 れ新	19,096
和歌山3区	二階俊博 自民	102,834	畑野良弘 共産	20,692
静岡5区	細野豪志 無	127,580	吉川赳 自民	61,337 比例当選
埼玉5区	枝野幸男 立民	113,615	牧原秀樹 自民	107,532 比例当選
岩手3区	藤原崇 自民	118,734	小沢一郎 立民	109,362 比例当選
神奈川13区	太栄志 立民	130,124	甘利明 自民	124,595 比例当選
東京3区	松原仁 立民	124,961	石原宏高 自民	116,753 比例当選
東京8区	吉田晴美 立民	137,341	石原伸晃 自民	105,381 落選
大阪10区	池下卓 維新	80,932	辻元清美 立民	66,943 落選



自民15議席減、甘利幹事長辞任  
大躍進の維新「第3党」に

候補一本化の野党共闘で臨んだ立憲民主、共産両党に風は吹かず伸び悩む一方、日本維新の会は40超えの議席を得て衆院第3党に躍進。自民党は公示前の議席から15議席を減らしながらも、国会を円滑に運営できる261議席の「絶対安定多数」を確保し、岸田政権の継続を確実とした。絶対安定多数は全常任委員長ポストを押さえ、過半数の委員も送り込める。

岸田文雄首相は就任から1カ月足らずであり、内政、外交とも評価に値する実績は何もない。選挙戦でも岸田政権で何が変わるのか具体策を示せなかった。安倍晋三、菅義偉政権下の9年近くにわたった「自民党1強」政治やコロナ対応を巡る国民の不満、不

安があったことは間違いない。甘利明幹事長や石原伸晃元幹事長、現職閣僚の若宮健嗣万博相らが小選挙区で相次いで敗北。「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」、野村克也元プロ野球監督の言った名言だが、自民党にとって今回の衆院選はまさしく「勝ちに不思議な勝ちあり」だった。それでも麻生太郎副総裁は「選挙は大勝だった。胸を張っていい」と岸田首相にエールを送った。

岸田氏は短期間に総裁選と総選挙という二つの大きな選挙で勝利を収めた稀有な首相になった。最初の仕事幹事長人事となったが、コロナ「第6波」への備えと経済再建、自民党の衆院選公約で掲げた最重要課題の具体策や道筋を

河野太郎氏最高得票

自民党の河野太郎氏が最高得票の21万515票を獲得し、2009年鳩山由紀夫氏の20万1461票を上回り、小選挙区比例代表並立制が導入されて以降の最多記録となった。9月の総裁選で河野太郎氏を推した小泉進次郎・石破茂氏も選挙区で圧勝、面目躍如を果たす。

一方、東京8区で出馬した石原伸晃氏は比例復活当選もならず涙。東京3区で弟の石原宏高氏は比例復活当選するも、石原派は森山裕元国会対策委員長を含む衆院議員7人のみとなり消滅の危機。

本県にも親しみのある二階派、細野豪志氏は静岡5区より無所属で出馬し、自民党吉川赳候補の2倍の票を獲得し圧勝。自民党が入党を認められ、自民党は全7派閥がいずれも人数を減らし、衆院議員で

は細田派54人、麻生派39人、二階派32人、岸田派29人、竹下派26人、旧谷垣グループ12人、旧菅グループ11人、石破グループ11人、石原派7人、無派閥40人となった。

甘利幹事長自ら辞意

自民党の要、幹事長の甘利氏は政治とお金の問題、都市再生機構（UR）と補償交渉をしていた建設会社側から、当時の秘書が少なくとも現金500万円、自身も100万円、口利きのための現金を受け取っていた疑惑で経済再生担当相を辞任したことが影響し、小選挙区で敗れ比例復活当選となつたが、自ら幹事長を辞任。茂木敏充外務大臣が新幹事長に就任。

今後の政権運営を考えると、甘利氏の「政治とカネ」の問題への説明責任を問う声が根強く、国会での集中砲火も必死。甘利氏自身が岸田政権の「お荷物」になりつつあつ